

2024年度第2回社会・環境部会運営小委員会議事メモ（案）r1

2024年8月25日
社会・環境部会 事務局長
山本 隆一

1. 開催日時
2024年8月23日（金）13：30～15：30
2. 開催場所
Zoomによるリモート会議
3. 出席者
土田部会長、佐田副部会長、諸葛委員、風間委員、寿楽委員、布目委員、高木委員、小林委員、木藤委員、竹田委員、龍原委員、篠田委員、桑垣委員、稲村委員、山本事務局長
4. 配付資料
24-2-0 議事次第
24-2-1 2024年度第1回社会・環境部会運営小委員会議事メモ案
24-2-2 部会等運営委員会の状況について
（別紙1）国際活動委員会_海外協定学協会との協定更新の状況と連携
（別紙2）協定学協会主催会議への参加支援細則
24-2-3 2024秋の大会全体会議議事次第
24-2-4 企画セッション
24-2-5 予算執行状況
24-2-6 マスメディアとの関係構築（現状と見通し）
24-2-7 ポジション・ステートメント改革について
24-2-10-1 2024年度運営委員一覧案
24-2-10-2 2024年度運営体制表
24-2-11 連載執筆検討依頼
（参考）直近の連載講座一覧
5. 議事概要
部会長挨拶の後、議事次第に沿って議事が進められた。
 - (1) 前回議事メモ確認
部会長より、既に全員が確認済みであることから、時間節約のため、議事

録紹介は止め、念のため再確認し、修正点等あった場合は、山本事務局長まで連絡することとなった。

(2) 部会等運営委員会の状況について

稲村委員より資料 23-2-2 に沿って説明があった。主な点は以下の通り；

- ① 春の年会は出展料の値上げや出展者が過去最多となったこと等により人件費を除き 1270 万円の黒字となった、とのこと。
- ② 学生連絡会のポスターセッションの開催報告において、審査員より審査結果のフィードバックについて要望があった、とのこと。また、対面開催だったことで活気のあるセッションになった、とのこと。
- ③ 事務局より参加者等のアンケート結果説明があり、今後も対面開催を望む声が多かった、とのこと。⇒次の春の年会については開催まで時間が無いため（事前準備等で 1 年半程度の時間が必要とのこと）従来方針通りオンラインでの開催で、変更なし。
- ④ 秋の大会の準備状況として、東北大学大学院工学研究科と共催とすることで、会場費が無料になった他、仙台観光国際協会を通じて 47 万円の助成金を得られることが内定した模様。この助成金は見学会のバスチャーター費に充当する予定とのこと。

(3) 2024 年秋の大会について

- ① 全体会議の構成と部会員への周知について

山本より、昨年の秋の大会の事例に倣って作成した議事次第案(資料 24-2-3)に沿って、全体会議の概要について紹介した。当日使用する資料については担当者の負担軽減等の観点から、プロジェクターにて提示しつつ説明することとし、紙配布は止めることとなった。

- ② 部会企画セッションの構成と役割分担等について

佐田副委員長より資料 24-2-4 に沿って説明があった。内容については既にメール等で情報共有されていたので、特段の質疑は無かった。

(4) 定例報告等

- ① 予算執行状況

高木委員より 24-2-5 に沿って説明があった。秋の年会の企画セッションは講師が学会員のため旅費等は生じなくなった。「マスメディア交流会」については、次項で会議室の候補の説明があり、それらの利用料は計上予算内であるため、利用することになる(確保できた)場合の支出については承認された。

- ② マスメディアとの関係構築について

風間委員より 24-2-6 に沿って説明があった。その中で、来年 1 月 10 日の午後、WiFi 環境が良好で適正な規模の会議室を借りて開催する方向で了承された。また、テーマについては、負荷追従運転に関わる課題、等について、学会内でそれを解説できる者の有無の確認と合わせて検討していくこととなった。

③ ポジション・ステートメント改革について

山本より 24-2-7 に沿って、バックエンド部会より提出された 2 件の PS の審議中断について紹介し、同様な状況の再発防止策として、近い将来、当部会にて作成される新 PS の作成プロセスへの部会員の参画について提案し、その方向で検討することが了解された。

④ 部会 HP について

木藤委員より本日あらためて紹介するような事項は無いとのこと。

(5) その他

① 研究専門委員会の状況について

寿楽委員より口頭にて年内にワークショップあるいはシンポジウムといったイベントを開催することを検討している旨の紹介があった。

② 運営小委員会における役割分担について

運営小委員会内で分担している役割について、就任期間が長くなっている委員が多くなってきているので、役割の交代について議論を進めたい、との意思表示が部会長よりなされ、賛同を得た。

③ 学会誌から連載執筆検討のお願い

佐田副部会長(学会誌編集長)より、当部会において学会誌での連載記事の執筆要請があったが、今回は見送ることとし、研究専門委などで今後、成果がまとまれば、その時には改めて議論していくこととなった。

以上